

# 法政大生、地域創生に挑戦

## 自治体、地域事業者と共に

大学生が主体となって、地方自治体や地域事業者と共に、地域創生に取り組み活動が活発に行われている。

法政大学は、1月6日、「地方共創プログラム」地方に学び、自分を知る」最終発表会を実施した（コーディネーター・高田朝子・法政大学イノベーション・マネジメント研究科教授）。同プログラムは、法政大創設者である伊藤修氏と金丸鉄氏の出身地である大分県杵築市を対象地域とし、2022年8月より開始された。20名の

学生が参加し、四つのグループに分かれ、事前調査や地域事業者などへのインタビュー、

現地フィールドワークを行い、「だんだん杵築に行きたくなる発展型観光プラン」「杵築の城下町を訪れた人が、更に足を延ばして山香地域・大田地域へ訪れてくれる周辺観光プラン」「杵築産ハモ(鱧)のプロモーションプラン」という自治体から提示された三つのテーマに対して、実現可能なプランの企画・提案を行うことを目指す。

当日は、冒頭に、廣

そして魅力があることを学ぶ貴重な機会になったと思う。本学の創立者3名のうち2名の出身地である杵築市の皆様とのご縁と支援に感謝している」とあいさつした。

続けて、最終発表ではプログラムに参加した学生から、山香温泉や杵築城をはじめとした名所を巡るスタンプラリーや、海と山に囲まれた山香地域・大田地域を「小さな日本」と捉えて農業体験やマリンスポーツを楽しみながら豊かな自然を満喫する観光プラン、どぶろく祭りなどの日程に合わせてSNSを活用するポスター公募、同大学食堂での鰻料理の提供などのアイデアが提案された。

講評では、永松悟・杵築市長が「杵築市の魅力や課題について、インタビューなどを重ねながら、私たちと一緒にになって、悩み考え抜いていただいた。こうした熱心な人材との交流を通じて、私たちも刺激を受けた」と述べた。



大分県杵築市への地域創生プランを発表

瀬克哉・法政大学総長が「法政大学は7割以上の学生が首都圏出身の自宅通学者だが、自分たちが生まれ育った環境以外にも、日本全国には、さまざまな地域や社会経済、